

2024年度 全国生協のSDGsの取り組み

私たちは持続可能な社会の実現に向けて、7つの取り組みを「コープSDGs行動宣言」※1として2018年にまとめました。その進捗状況を報告します。

持続可能な生産と消費のために、 商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

関連するSDGsの
主たる目標



目標12 (つくる責任、つかう責任) 《関連するSDGsの目標》

持続可能な生産消費形態を確保する。



●【プラスチック容器包装の削減、再生・植物由来プラスチックへの切り替え】 全国の生協

【目標】 使い捨てプラスチック容器包装の使用量を2030年に2018年度比で25%削減

⇒ 使い捨てプラスチック容器包装の使用量は、2018年度比で13%削減(2023年度)。

・CO・OP商品の再生・植物由来プラスチック包材は、前年から171品増加し1,102品に拡大。

●【カタログ・チラシに使用する紙使用量の削減】 全国の生協

【目標】 商品カタログに使用する紙使用量を2030年に2021年度比で25%削減

⇒ 紙使用量は、これまで増加していたところ、2022年度、2023年度と2年度連続で減少し2021年度比で5%削減。

●【食品廃棄物・ロスの削減】 全国の生協

【目標】 食品廃棄物を2030年に2018年度比で50%削減

⇒ 食品廃棄物は2018年度比で14%削減(2023年度)。一方で食品リサイクル率は78%と高水準を維持。

●【コープサステナブルアクション】 全国の生協

・組合員とともに「知り」「学び」「アクション」する仲間を増やし、持続可能な世界の実現を目指す「コープサステナブルアクション」を昨年に続いて実施し、52生協が参加。

●【エシカル消費対応商品の拡大】 日本生協連

【目標】 CO・OP商品のめざす未来：すべてのCO・OP商品をエシカル消費対応に

⇒ CO・OP商品のエシカル消費対応商品の供給高は、2,696億円(前年比109%)に拡大。

- ・環境や社会に配慮した主原料を使った商品に、共通のロゴマークを付けた「コープサステナブル」シリーズの供給高は、302億円(前年比107%)に拡大。
- ・8割以上※2の生協で「エシカル消費」や「SDGs」、「リサイクル」をテーマにした学習活動や親子企画が行われた。新たに「社会問題(貧困・人権問題等)」に関する学習を行った生協が増加。

※1 SDGsの達成に向け、生協もその一端を担うべく策定された行動宣言。第68回日本生協連通常総会(2018年6月開催)にて採択。

※2 環境・サステナビリティ政策進捗調査に回答した65生協中61生協の結果。

健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

関連するSDGsの
主たる目標



目標3 (保健)

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

《関連するSDGsの目標》



●【助け合い活動】 全国の生協

- ・くらしの困りごとを組合員同士で助け合う有償ボランティア活動である助け合い活動は、年間のべ46万9,059時間、活動者のべ15,804人が取り組んだ(2022年度末)。

●【ふれあいサロン活動】 全国の生協

- ・気軽に立ち寄ることができる場の提供などを行うサロン活動は、年間のべ2,000回開催、参加人数のべ19,307人が取り組んだ(2022年度末)。

●【認知症サポーター】 全国の生協

- ・2024年度の認知症サポーター養成講座は119回開催され、新たなサポーター数は1,031人となった。認知症サポーター数の合計は、53生協50,869人へと増加(2025年3月末時点)。

誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

関連するSDGsの
主たる目標



目標11 (持続可能な都市)

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

《関連するSDGsの目標》



●【自治体との包括連携協定、地域見守り協定】 全国の生協

- ・自治体との包括連携協定の締結は221件に拡大。
- ・自治体との地域見守り協定締結率は、33都道府県、1,307市区町村、63社会福祉協議会と、全市町村数の75.1%に拡大。
- ・緊急時における物資供給等に関する協定は、961件に拡大(2025年3月末時点)。

●【買い物支援(移動販売車、買い物送迎車)】 全国の生協

- ・移動販売車は36生協251台が展開(2025年3月末時点)。
- ・買い物送迎車は、25生協129台が展開(2025年3月末時点)。

●【配食事業(宅配弁当・配食サービス)】 全国の生協

- ・配食事業の利用は、16.5万人(前年比100.0%)で前年並み(2024年度6月時点)。

●【災害支援】 全国の生協

- ・各地での台風や線状降水帯による豪雨災害、豪雪など自然災害への対応として、地域ごとに平時からの関係団体とパートナーシップ構築や組合員・職員への防災・減災の学習に取り組む。

●【能登半島地震の被災地支援^{※3}】 全国の生協・日本生協連

令和6年(2024年)能登半島地震・奥能登豪雨災害への被災地支援を、全国生協と力をあわせて取り組みを継続。

- ・「令和6年能登半島地震支援募金」は、能登豪雨災害募金とあわせて引き続き取り組み、228生協から約22億3百万円が寄せられた(2025年3月末時点)。
- ・生協職員による災害ボランティアセンター支援は、2024年3月11日～12月23日まで3市町(能登町・穴水町・輪島市)で54生協242人が参加。
- ・全国の生協の多様な支援活動を共有する「つながる力で能登を笑顔にミーティング」を17回開催し、のべ304生協からのべ680人が参加(2025年3月末時点)。
- ・2024年11月には、「能登復興応援ピースコンサート」が羽咋市で開催され、能登4市町から802名が参加。
- ・被災者への物資支援の継続や、炊き出しなどのボランティアのコーディネートなどに、生協や行政、NPO団体などと連携して取り組む。

世界から飢餓や貧困をなくし、 子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

関連するSDGsの
主たる目標



目標1（貧困をなくそう）

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

《関連するSDGsの目標》



●【ユニセフ（国際連合児童基金）への募金※⁴】 全国の生協

- ・ユニセフ募金は、2024年4月1日～2025年3月31日、一般募金、指定募金、緊急募金を合わせ約2億9,146万円に。
- ・全国の生協のユニセフ募金は、1983年からの累計で約128億円に。

●【子どもの貧困にかかわる取り組み】 全国の生協

- ・貧困をはじめとする子どもの問題を社会の問題としてとらえ、学び、考えることから、共感の輪を広げていく「子どもの未来アクション」は、アンバサダー登録は1,310人に、学習会はのべ374回開催され、参加者はのべ16,019人に（2025年3月末時点）。
- ・「子どもの貧困支援活動応援助成」は、17団体に総額646万円を助成。
- ・子ども食堂・多世代食堂はのべ46生協、学習支援はのべ21生協、フードドライブは60生協、フードバンクはのべ54生協、奨学金制度はのべ14生協、助成金制度はのべ19生協が取り組む（2022年度調査）。

●【生活相談・貸付事業】 全国の生協

- ・生活のための資金貸付を行う生活相談・貸付事業は、8生協で670件の貸付を実施（2024年4月度～2025年3月度）。

核兵器廃絶と世界平和の実現を めざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

関連するSDGsの
主たる目標



目標16（平和）

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

《関連するSDGsの目標》



●【ピースアクション】 全国の生協

- ・くらしの中から平和への思いを考え、語り合う活動や学習会、つどい、展示会、地元の戦跡めぐり、戦争・被爆体験者からの証言を聴くなど、さまざまな平和活動に取り組む『ピースアクション』は、全国で437件、のべ2万人が参加。
- ・ピースアクションinヒロシマ・ナガサキでは、75生協のべ3,400人が参加（2024年8月開催）。
- ・ピースアクションinオキナワでは、41生協259人が現地にて参加（2025年3月開催）。

※3 2024年1月1日、マグニチュード7.6、最大震度7を観測する「令和6年（2024年）能登半島地震」が発生。全国の生協は、発災直後から被災地の生協・県生協連と連携し、コープいしかわを中心に被災地支援に取り組んでいる。

※4 1979年の国際児童年にICA（国際協同組合同盟）からの協力の呼びかけに応えるかたちで、生協の組織的なユニセフ募金活動が始まり、1984年から全国の生協で取り組んでいる。

地球温暖化対策を推進し、 再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標（2030年環境目標）を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

関連するSDGsの
主たる目標



目標7（エネルギー）

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。



目標13（気候変動）

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

●【温室効果ガス排出量の削減】 全国の生協

【目標】 CO₂排出量を2030年に2013年度比で40%削減

⇒ CO₂排出総量は72万5,510トンとなり、2022年度比では4.9%増加したものの、基準年である13年度比では29.1%削減（2023年度）。

●【再生可能エネルギーの開発】 全国の生協

【目標】 再生可能エネルギーを2030年までに年間発電量4億kWhへ（設備容量200MW相当）

⇒ 太陽光発電、バイオマス発電、風力発電が増加し、2023年度の年間発電量は合計で約2.50億kWh、設備容量は約137MW。

●【EV車の導入】 全国の生協

・導入したEV車（軽自動車・軽バン323台、トラック22台）は345台、FCV車は1台に拡大（2025年1月末時点）。

ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる 社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

関連するSDGsの
主たる目標



目標5（ジェンダー）

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

《関連するSDGsの目標》



●【正規職員と管理職の女性比率】 全国の生協

- ・正規職員（総合＋限定）女性比率は、28.2%に増加。
- ・正規職員の管理職（課長級以上）女性比率は、2020年目標15%に対し、13.6%に到達。

●【男性職員の育児休業取得率】 全国の生協

- ・男性職員の育児休業の取得率は、59.8%に増加。

●【アジアの協同組合の女性参画支援】 日本生協連

- ・ICA（国際協同組合同盟）のアジア・太平洋地域の理事会に参加し、女性委員会^{※5}の活動を支援。

※5 国際協同組合同盟アジア・太平洋地域（略称：ICA-AP）の女性参画を進める委員会。